

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.10

新機能と変更点

ドキュメントリリース日: 2010年9月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2010年9月 (英語版)



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付属する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel®, Intel® Itanium®, Intel® Xeon®, および Pentium® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows® XP, および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation とその子会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最近更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細については、HPの営業担当にお問い合わせください。

バージョン番号が9.10である理由

PPM Centerは、HP BTO Operationsバージョン9ポートフォリオに組み込まれています。このバージョン番号を使用するのは、PPM Centerのバージョンと、同時期にリリースされる他の製品のバージョンを揃えるためです。PPM Center 9.10はPPM Center 8.0xをベースとしており、このバージョンの製品ファミリーを拡張した製品となっています。HP BTO Operationsバージョン9ポートフォリオ内でリリースされる製品では、共有のテクノロジー、共通のプラットフォーム、統合、ソリューション、アップグレードツール、プロフェッショナルサービスが提供されます。

サポート

次のHPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/>

HPソフトウェアサポートオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次のWebサイトを参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP PassportのIDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

目次

1	PPM Centerバージョン9.10のご紹介	9
	特徴	9
	HP Portfolio Management	10
	HP Resource Management	10
	HP Time Management	10
	HP Financial Management	11
	HP Program Management	11
	HP Project Management	12
	Web サービス	12
	統合	12
	ソリューション	13
	アップグレードの注意点	13
	変更または新規作成された文書のタイトル	14
	関連情報	14
2	新機能と拡張機能	17
	追加と変更の概要	17
	サポート対象言語	17
	操作性の改善	18
	管理コンソールインタフェース	18
	ポートレットのフィールド長	19
	Operational Reporting ソリューション	19
	すぐに使用できる Operational Report	20
	Operational Report のカスタマイズ	20
	HP Portfolio Management	21
	階層ポートフォリオ	21
	HP Resource Management	22
	保証済み割り当て	22

今後の予測とアサインのクリア	22
アサインの負荷の分析	23
スタッフィングプロファイルのロック	23
スタッフィングプロファイルのスクロールバーのポジション	23
HP Time Management	24
空の明細を含むタイムシートの許可と禁止	24
タイムシートの作成時、直近のタイムシートではなくマイアイテムリストの項目をコピーするオプション	24
タイムシートでの時間入力 (日単位)	24
タイムシートの [項目] 列の動的拡張	25
タスクでの [達成率 (%)] の入力 (オプション)	25
HP Financial Management	25
プログラムの財務サマリ	25
ライフサイクルエンティティの財務サマリ	26
財務サマリでのメモの表示と追加	26
財務サマリの監査履歴	27
[財務比較] ポートレットと [財務サマリと財務データの比較] ポートレット	27
ベネフィットカテゴリの [回避] および [収入] の検証の編集	27
HP Program Management	28
[プログラムの概要] ページ	28
ライフサイクルエンティティ	28
プログラムをポートフォリオに追加	29
プログラムの財務サマリ	29
プログラムの検索	29
プログラムの作成	29
プログラムレベルのリスク	30
プログラムコストサマリポートレット	30
[プログラムプロジェクトリスト] ポートレット	30
[プログラムリスト] ポートレットと [プログラムコンテンツリスト] ポートレット	30
HP Project Management	31
作業計画	31
Microsoft Project との統合	32
関連付けられたプログラム	33
タスクでの [達成率 (%)] の入力 (オプション)	33
[タスクの検索] ページ	33
HP Demand Management	34
プロジェクトリクエストの編集	34
管理機能およびパフォーマンスの改善	34

パフォーマンスの向上	34
Webサービス	34
HP Resource Management	34
HP Time Management	35
HP Portfolio Management	35
HP Program Management	36
HPソリューションの統合	36
Application Lifecycle Management	36
サービスポートフォリオ	37
作業計画タスクとHP Service Manager RFCの統合	38
3 アップグレードの影響	39
アップグレードでの注意点	39
アップグレードパス	39
Oracleデータベースの互換性	40
Microsoft Windows	40
Sun Solaris	41
HP-UX	41
IBM AIX	42
Red Hat Linux	42
SUSE Linux	43
拡張機能とマイグレータの互換性	44
HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite	44
HP Object MigratorおよびMercury GL Migrator	46
HP Deployment Management Extension for Oracle Technology	48
HP Deployment Management Extension for SAP Solutions	48
カスタマイズソリューション	48
データモデルの変更	49
テーブル	49
ビュー	56
エンティティの変更	57
アクセス許可	57
ライセンス	58
ポートレット	58
レポートタイプ	59
リクエストヘッダータイプフィールドグループ	59
レポートタイプ	59
特殊コマンド	59

検証	60
ワークフロー	60
4 システム要件および設定の更新	61
システム変更の概要	61
server.confファイルの変更	61
追加と変更	61
削除されたパラメータ	65
索引	67

1 PPM Centerバージョン9.10のご紹介

特徴

このバージョンのHP Project and Portfolio Management Center (PPM Center) では、主に次の機能が拡張されています。

- 操作性
- HP Portfolio Management
- HP Resource Management
- HP Time Management
- HP Financial Management
- HP Program Management
- HP Project Management
- Webサービス
- 統合の更新
- ソリューションのアップグレード

上記の変更点について、バージョン8.00との比較で説明します。各項目のリンクを選択すると第2章「新機能と拡張機能」(17ページ)に移動し、変更点の詳細な内容を参照できます。詳細については、関連の製品ガイドも参照してください。



バージョン9.10には、バージョン7.5サービスパック (SP4、SP5、SP6) およびバージョン8.00.01 (8.00 SP1) で追加された新機能や変更が含まれています。ただし本書では、各機能が含まれるサービスパックが明記されていない場合もあります。サービスパックの詳細な内容については、バージョン7.5およびバージョン8.00の『リリース ノート』を参照してください。

HP Portfolio Management

HP Portfolio Managementには、主に次のような拡張機能が追加されています。

- 「階層ポートフォリオ」

HP Resource Management

HP Resource Managementには、主に次のような拡張機能が追加されています。

- 「保証済み割り当て」
- 「今後の予測とアサインのクリア」
- 「アサインの負荷の分析」
- 「スタッフィングプロファイルのロック」
- 「スタッフィングプロファイルのスクロールバーのポジション」

HP Time Management

HP Time Managementには、主に次のような拡張機能が追加されています。

- 「空の明細を含むタイムシートの許可と禁止」
- 「タイムシートでの時間入力 (日単位)」
- 「タイムシートの [項目] 列の動的拡張」
- 「タスクでの [達成率 (%)] の入力 (オプション)」

HP Financial Management

HP Financial Managementには、主に次のような拡張機能が追加されています。

- 「プログラムの財務サマリ」
- 「ライフサイクルエンティティの財務サマリ」
- 「財務サマリでのメモの表示と追加」
- 「財務サマリの監査履歴」
- 「[財務比較] ポートレットと [財務サマリと財務データの比較] ポートレット」
- 「ベネフィットカテゴリの [回避] および [収入] の検証の編集」

HP Program Management

HP Program Managementには、主に次のような拡張機能が追加されています。

- 「[プログラムの概要] ページ」
- 「ライフサイクルエンティティ」
- 「プログラムをポートフォリオに追加」
- 「プログラムの財務サマリ」
- 「プログラムの検索」
- 「プログラムの作成」
- 「プログラムレベルのリスク」
- 「[プログラムコストサマリ] ポートレット」
- 「[プログラムプロジェクトリスト] ポートレット」
- 「[プログラムリスト] ポートレットと [プログラムコンテンツリスト] ポートレット」

HP Project Management

HP Project Managementには、主に次のような拡張機能が追加されています。

- 「作業計画」
- 「Microsoft Projectとの統合」
- 「関連付けられたプログラム」
- 「タスクでの [達成率 (%)] の入力 (オプション)」
- 「[タスクの検索] ページ」

Web サービス

Web サービスでは、次の内容が更新されています。

- 「HP Resource Management」
- 「HP Time Management」
- 「HP Portfolio Management」

統合

PPM Centerバージョン9.10には、次に示す統合が含まれます。

- HP Application Lifecycle Management (ALM) を使用して、HP Service Manager、HP Universal CMDB、HP Quality Center、HP Change Control Management、HP Release Controlを統合します。「[Application Lifecycle Management](#)」(36 ページ)を参照してください。
- HP Universal CMDBとの統合により、サービスポートフォリオのサービスリストを取得します。「[サービスポートフォリオ](#)」(37 ページ)を参照してください。
- 作業計画タスクとHP Service Manager変更リクエスト (RFC) を統合します。「[作業計画タスクとHP Service Manager RFCの統合](#)」(38 ページ)を参照してください。

ソリューション

このバージョンのPPM Centerには、新しいOperational Reportingソリューションが追加されています。このソリューションは、BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP2およびOracleをベースに設計されています。「Operational Reporting ソリューション」(19 ページ)を参照してください。

アップグレードの注意点

バージョン8.00からバージョン9.10へのアップグレードでは、次の点に注意してください。

- **アップグレード処理:** 実際のアップグレード処理による影響が第3章「アップグレードの影響」(39 ページ)に記載されているので、参照してください。

この章では、PPM Centerデータモデルおよびエンティティの変更がユーザーのカスタマイズ環境に影響を与える可能性がある場合についても説明します。

- **システム管理:** PPM Centerのシステム管理者およびデータベース管理者向けの注意点は、第4章「システム要件および設定の更新」(61 ページ)を参照してください。

変更または新規作成された文書のタイトル

表 1-1は、PPM Centerバージョン9.10変更された文書のタイトル一覧です。

表 1-1. PPM Centerバージョン9.10で変更された文書のタイトル

PPM Centerバージョン8.00以前	PPM Centerバージョン9.10
(新規)	Operational Reporting Administrator's Guide
(新規)	Operational Reporting User's Guide
(新規)	Web Services Programmer's Guide
HP Application Lifecycle Management Guide	『HP Solution Integrations Guide』

関連情報

次に示す文書では、本バージョンのインストール、設定、カスタマイズに関する詳細な内容が記載されています。

- 『Installation and Administration Guide』
- 『Deployment Best Practices Guide』
- 『Upgrade Guide』
- 『System Requirements and Compatibility Matrix』
- 『ポートレットとモジュールの作成』
- 『標準インタフェースのカスタマイズ』
- 『スタートアップガイド』
- 『Generating Fiscal Periods』
- 『Multilingual User Interface Guide』

その他の詳細な内容については、次の PPM Center 製品の文書を参照してください。

- HP Demand Management
- HP Deployment Management
- HP Financial Management
- HP Portfolio Management
- HP Project Management
- HP Program Management
- HP Resource Management
- HP Time Management
- Application Lifecycle Management
- HP Center Management for Quality Center
- HP ドキュメント管理
- Web サービス
- Operational Reporting

2 新機能と拡張機能

追加と変更の概要

この章では、本バージョンの新機能について説明します。以下に示す機能について、既存のプロセス、手順、ビジネス戦略に追加した場合に問題や影響がないか確認してください。

サポート対象言語

PPM Center 言語パックでは、英語の他に、次の言語を使用できます。

- オランダ語 (新規)
- 日本語
- 韓国語
- ドイツ語
- ブラジルポルトガル語
- フランス語
- イタリア語
- ロシア語
- 簡体字中国語
- スペイン語
- トルコ語



言語パックは、本バージョンの PPM Center の最初のリリース以降に利用可能になります。一部の言語パックは、英語版と同時に提供されないことがあります。

操作性の改善

管理コンソールインタフェース

PPM Center に管理コンソールインタフェースが追加されました。管理者は、このインタフェースから次の操作を実行できます。

- 単一の PPM Server、サーバクラスタ内にあるすべてのノード、個々のノードにおいて、サーバ設定パラメータを設定します。
- PPM Center インスタンスで設定されている各 PPM Server の詳細なステータス情報 (アクティブステータス (実行中、ダウン)、開始時刻と終了時刻、RMI URL、サーバで使用可能な軽負荷キューリスナおよび高負荷キューリスナ) を表示します。
- 会計期間に関連して次の操作を実行します。
 - 会計期間の作成
 - 既存の会計期間のシフト
 - 会計期間のインポートとエクスポート
 - 会計期間の移行の作成

管理コンソールにアクセスするには、PPM Center 標準インタフェースから次の手順を実行してください。

- メニューバーから、**[開く]** > **[管理]** > **[管理コンソールを開く]** を選択します。

ポートレットのフィールド長

次のポートレットで、タスク名フィールドの長さが拡張されました。

- プロジェクトのガント
- リソースのガント

次のポートレットで、プロジェクト名フィールドの長さが拡張されました。

- 資本化されたプロジェクトタイムライン
- プロジェクトタイムライン

Operational Reporting ソリューション

PPM Center には、Operational Reporting ソリューションが付属します。Operational Reporting では、BusinessObjects Web デスクトップである InfoView を使用して、HP Financial Management、HP Resource Management、HP Time Management の各テーブルデータでクエリを実行し、運用レポートをインタラクティブに作成することができます。

Operational Reporting を使用するには、BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP2 ソフトウェアのインストールと、Oracle 11g データベースソフトウェアを基盤とする専用のデータベーススキーマが必要です。完全または増分の ETL ジョブ (抽出、変換、ロード) を実行すると、設定したスケジュールに基づいて Operational Reporting と PPM Center データベースを同期できます。



この Operational Reporting プラットフォームでは、今後も PPM Center レポートが新しく開発される予定です。

新しい Operational Reporting ソリューションについて、『Operational Reporting Administrator's Guide』および『Operational Reporting ユーザーズガイド』という2つの文書が提供されています。Operational Reporting で使用するデータテーブルやビューについては、『Data Model Guide』を参照してください。

すぐに使用できる Operational Report

Operational Reporting では、次のレポートが事前に設定されています。InfoView で実行することによって、PPM Center データベースでクエリを実行し、わかりやすいデータを作成できます。

- **Demand Vs Capacity Report (デマンドとキャパシティの比較レポート):** このレポートでは、PPM Center リソースキャパシティ (リソースプールに含まれる名前付きリソースと名前なしリソース)、デマンド (スタッフイングプロファイルに含まれる、コミット済み、ソフトブック済み、デマンド不一致のリソース)、タイムシートの実績工数が表示されます。このレポートでは、地域、リソースプール、ロールごとにグループ化したデータを元に、デマンドとキャパシティを比較できます。
- **Time Sheet Compliance (タイムシートコンプライアンス) レポート:** このレポートでは、タイムシートについて、記録された数、送信 (の有無) の数、スケジュール通りに承認された数、指定された期間でのコンプライアンスのトレンドが表示されます。ドリルダウン機能を使用すると、マネジメントチェーン、組織単位、リソースプールの各レベルでのコンプライアンスの詳細情報を参照できます。
- **Financial Summary Report (財務サマリレポート):** このレポートでは、予算の計画値と実績値の比較、予算に関連するすべての属性値が表示されます。地域、ビジネス目標、予算タイプ (予算作成時のエンティティ) ごとに予算情報をグループ化することができます。また、費用タイプや人件費タイプに基づいて予算金額を分析することも可能です。予算コストは、PPM Center システムで定義した通貨または任意の通貨で表示できます。

Operational Reportのカスタマイズ

Operational Reporting で提供される PPM Center Universe を使用して、さまざまなカスタマイズレポートを作成できます。カスタマイズしたレポートでは、PPM Center システムで定義されているユーザデータフィールドのデータを使用できます。

HP Portfolio Management

階層ポートフォリオ

本バージョンのPPM Centerでは、HP Portfolio Managementの新しいタイプのエンティティとして階層ポートフォリオが追加されています。階層ポートフォリオには、次のタイプの項目を含めることができ、進捗状況のトラッキングも可能です。

- 各ライフサイクルエンティティ (提案、プロジェクト、資産)。
- プログラム。ライフサイクルエンティティの3タイプすべてを含めることができます。
- 他のポートフォリオ。ポートフォリオに追加した時点で、下位ポートフォリオになります。下位ポートフォリオとは、階層構造上、他のポートフォリオの下位に位置するポートフォリオであり、任意のポートフォリオと同じタイプの項目を含めることができます。下位ポートフォリオは、必要に応じて、任意のレベルまでネストすることができます。階層構造の中で、すぐ上のレベルに位置するポートフォリオが上位ポートフォリオです。階層構造の最上位に位置するポートフォリオは、ルートポートフォリオです。ポートフォリオ階層には、複数のルートポートフォリオが存在することがあります。

ポートフォリオの表示および編集機能は、アクセス許可とアクセス権限で制御されます。

財務データは、ライフサイクルエンティティから各プログラムへ、ライフサイクルエンティティ、プログラム、下位ポートフォリオから各ポートフォリオへロールアップされます。

個々のライフサイクルエンティティ、プログラムまたはそのエンティティ、下位ポートフォリオまたはそのエンティティがポートフォリオに含まれている場合は、同じポートフォリオ内の別の場所または別のポートフォリオには追加できなくなります。これには、ポートフォリオでの財務データの二重計算を防ぐ目的があります。

提案、プロジェクト、資産リクエストを含むポートフォリオの名前は、リクエストに表示されます。リクエストを検索すると、1つまたは複数のポートフォリオにどのようなリクエストが含まれるかを確認できます。

HP Resource Management

保証済み割り当て

保証済み割り当てとは、名前が指定されていないリソース割り当てを指します。リソースの割り当てを行った後、PPM Centerで定義しない場合（請負業者など）に使用します。または、リソースをコミットしておき、後で特定のリソースを割り当てることもできます。保証済み割り当てには、実績データは入力できません。

この機能を有効にすると、スタッフィングプロファイルや [Resource Allocation Management] ページで使用可能になります。

この機能が無効になっていても、保証済み割り当て（未処理のデマンド、現在のデマンド、残存キャパシティ、ロール別割り当てなど）を使用する計算では、必ず保証済み割り当てを含めた計算が実行されます。つまり、この機能を無効にする前に入力された保証済み割り当ては、インタフェース上では表示されませんが、計算には含まれます。

カレンダーに基づく計算（保証済み割り当てを時間からFTEに再計算する場合や、予測人件費をスタッフィングプロファイルから財務サマリにロールアップする場合など）では、保証済み割り当てが属する場所のリソースプールの地域カレンダーが使用されます。地域カレンダーでは、保証済み割り当ての就業日と非就業日が設定されています。保証済み割り当てには、リソースカレンダーは設定できません。

今後の予測とアサインのクリア

リソースマネージャは、スタッフィングプロファイルが完了すると、今後の予測とアサイン（終了日より後の予測とアサイン）をスタッフィングプロファイルからオプションで消去できます。今後の予測とアサインを消去すると、アサインの負荷の分析ポートレット、リソースプールの分析ポートレット、リソースの作業負荷キャパシティ、リソースファインダ、予測デマンド、スタッフィングプロファイル、[Resource Allocation Management] ページなどに値は反映されなくなります。

アサインの負荷の分析

[アサインの負荷の分析] プリファレンスに、[リソースプールからのキャパシティの分析] オプションが新しく追加されました。このオプションにより、リソースのキャパシティとスケジュールされた工数 (スタッフィングプロファイル) を、特定のリソースプールに限定することができます。つまり、リソースが複数のリソースプールに属している場合、リソースプールを選択し、そのプールのキャパシティとスケジュールされた工数に限定することができます。

スタッフィングプロファイルのロック

スタッフィングプロファイルに新しいステータスが追加されました。この [ロックダウン] ステータスは、スタッフィングプロファイルをロックして、ユーザによるデータ変更を禁止します。このステータスの設定には、[スタッフィングプロファイルの編集] または [すべてのスタッフィングプロファイルの編集] いずれかのアクセス許可および [スタッフィングプロファイルステータスの更新] アクセス権限が必要です。

ロック状態にあるスタッフィングプロファイルは、[予測計画] ページやスタッフィングプロファイルのフィルタで表示されなくなります。また、[スタッフィングプロファイルの検索] ページや [Resource Allocation Management] ページには表示されますが、データは変更できません。

スタッフィングプロファイルのスクロールバーのポジション

スタッフィングプロファイルでは、次のポジションにスクロールバーが表示されます。

- 水平ポジションが同じ場合：
 - ポジションが追加/更新されて画面がリフレッシュされると、スクロールバーはレコードに移動します (行は表示域の一番上に表示されます)。
 - リソースのアサインが追加/更新されて画面がリフレッシュされると、スクロールバーはリソースのアサインに移動します (行は表示域の一番上に表示されます)。
- 次の場合、スクロールバーのポジションはリセットされます (一番上または一番左に移動)。ポジションの却下、転送、インポート。次の場合、スクロールバーのポジションはそのまま保持されます (垂直/水平位置)。ポジションの削除、リソースリクエストの送信、メモの追加。
- 変更がない場合、ポップアップメニューの [キャンセル] ボタンを選択してもページはリフレッシュされません。

HP Time Management

空の明細を含むタイムシートの許可と禁止

これまでのバージョンでは、タイムシートに空の明細 (値がすべて0の行) があっても送信でき、このようなタイムシートを承認者は無視する必要がありました。server.conf に新しく追加されたパラメータとタイムシートポリシーを使用することにより、空の明細を含むタイムシートの送信を許可または禁止できます。また、ユーザがメッセージに応答してから、空の明細を含むタイムシートの送信を許可するオプションもあります。空の明細を含むタイムシートの送信を禁止することにより、パフォーマンスを向上することができます。詳細については、『Upgrade Guide』を参照してください。

タイムシートの作成時、直近のタイムシートではなくマイアイテムリストの項目をコピーするオプション

デフォルトでは、タイムシートの新規作成時、直近の期間のタイムシートから項目をコピーできなくなります。ただし、各ユーザのマイアイテムリストから、オープンな項目をすべてコピーすることができます。

直近の期間のタイムシートに含まれる項目のコピー操作は、server.conf に新しく追加された `TM_DISABLE_INCLUDING_LAST_TS_ITEMS` パラメータによって制御できます。ただし、**HP Time Management** では、マイアイテムリストと直近のタイムシートの両方からアイテムをコピーすることはできません。詳細については、『Upgrade Guide』を参照してください。

タイムシートでの時間入力 (日単位)

タイムシートポリシーに新しいオプションが追加されました。各作業項目の時間を1日に対する比率で入力するオプションであり、1日ごとに入力する方法と、全期間を1つの値で入力する方法があります。

タイムシートの [項目] 列の動的拡張

server.conf パラメータとして新しく追加された TM_DYNAMIC_DESC_CHARS と TM_DYNAMIC_DESC_CHARS_MAX は、タイムシートの [項目] 列の幅を制御します。この列には、作業項目の名前と説明が表示されます。列幅は、必要に応じて伸縮するので、長いまたは短い名前や説明に対応できます。詳細については、「server.conf ファイルの変更」(61 ページ) および『Installation and Administration Guide』を参照してください。

タスクでの [達成率 (%)] の入力 (オプション)

プロジェクト内のタスクの実績工数を入力する際に [達成率 (%)] フィールドに入力を要求するオプションが、プロジェクトの [コストと工数] ポリシーに新しく追加されました。タイムシートでは、このフィールドへの入力が要求されるタスクは赤のアスタリスクが表示されます。

HP Financial Management

プログラムの財務サマリ

プログラムには、財務サマリが1つ関連付けられています。これまでのバージョンでは、各プログラムにロールアップと編集可能な財務サマリが別途ありましたが、本バージョンではありません。

プログラムのアサイン済みライフサイクルエンティティからロールアップされたコストとベネフィットは、財務サマリロールアップサービスで指定された頻度に基づいてリフレッシュされます。このサービスが実行されるのは、Financial Management が有効であり、ライフサイクルエンティティのステータスがアクティブな場合のみです。

プログラムの財務サマリでは、次の内容が表示されます。

- プログラムに関する合計金額が表示されます。これには、正味現在価値、名目収益、承認された予算、予測コスト、予測ベネフィット、実績コスト、実績ベネフィットなどがあります。
- 選択した会計年について、承認された予算に対する予測コストと実績コストをグラフ表示します。

- 2年前から5年先の範囲の予測コストと実績コストをテーブル形式で表示します。
- 2年前から5年先の範囲の予測ベネフィットと実績ベネフィットをテーブル形式で表示します。

さらに、[サマリ]セクションとグラフセクションの一部フィールド名が変更されています。詳細については、「ライフサイクルエンティティの財務サマリ」を参照してください。

ライフサイクルエンティティの財務サマリ

ライフサイクルエンティティの財務サマリにある[サマリ]セクションと[グラフ]セクションで、一部のフィールド名が変更されています。

表 2-1. ライフサイクルエンティティの財務サマリのフィールド名の変更

これまでのフィールド名	新しいフィールド名
[サマリ] セクション	
合計予測	合計予測コスト
合計ベネフィット (計画)	合計予測ベネフィット
合計実績	合計実績コスト
合計ベネフィット (実績)	合計実績ベネフィット
[グラフ] セクション	
予測	予測コスト
実績	実績コスト
ベネフィット (計画)	予測ベネフィット
ベネフィット (実績)	実績ベネフィット

財務サマリでのメモの表示と追加

ライフサイクルエンティティの財務サマリ、プログラムの財務サマリ、財務データテーブルの[予測と実績の詳細]セクションと[ベネフィットの詳細]セクションでは、メモを表示および追加できます。また、組織単位の財務サマリの[サマリ]セクションでもメモの表示と追加が可能です。

財務サマリの監査履歴

財務サマリの監査履歴は、ライフサイクルエンティティ、プログラム、組織単位に対して行われた変更をトラッキングします。監査履歴では、PPM Center またはWebサービスを使って財務サマリを変更した内容をトラッキングします。

[財務比較] ポートレットと [財務サマリと財務データの比較] ポートレット

PPM Centerには、新しく2つのポートレットが追加されています。

- **財務比較**: 1つまたは複数のライフサイクルエンティティに関する予測またはレコードの計画 (POR) と、同じまたは異なるライフサイクルエンティティの予測または実績データとを比較して、棒グラフで表示します。
- **財務サマリと財務データの比較**: 1つまたは複数のライフサイクルエンティティの予測または実績データと、財務データテーブルとを比較して、棒グラフで表示します。

ベネフィットカテゴリの [回避] および [収入] の検証の編集

財務ベネフィットのカテゴリである [回避] と [収入] に関する以下の検証が、編集可能になりました。

- 財務ベネフィットの回避カテゴリリストの検証 ([回避] カテゴリ)。
デフォルト値は、[製品] と [サービス] です。
- 財務ベネフィットの収入カテゴリリストの検証 ([収入] カテゴリ)。
デフォルト値は、[コンプライアンス] と [リーガル] です。

HP Program Management

[プログラムの概要] ページ

[プログラムの概要] ページには、以下の機能が追加されています。一部は、[プログラムの変更] ページの廃棄に伴い、[プログラムの変更] ページの機能が新機能として追加されたものです。

[プログラムの概要] ページには、次の機能が追加されています。

- [新規のコンテンツ] セクションには、プログラムを構成するライフサイクルエンティティ (提案、プロジェクト、資産) が一覧表示されます。このセクションでは、プログラムにライフサイクルエンティティを追加または削除できます。
- **HP Financial Management** が有効になっていると、プログラムコストが [概要] タブに表示されます。
- [プログラムの概要] ページには、プログラムの [削除] ボタンがあります。
- [プログラム全体のヘルス] フィールド (プログラムの全体的なヘルスを設定) と [スコア] フィールド (プログラムの価値の評価) が、数値フィールドとして新しく追加されました。
- このページの情報は、**Microsoft Excel** にエクスポート可能です。
- ポートフォリオに含まれるプログラムについては、ポートフォリオ名が表示されます。
- [コンテンツ] セクションでは、クローズ済みコンテンツを表示するチェックボックスを選択できます。クローズ済みコンテンツのステータスは、[クローズ済み]、[完了済み]、[キャンセル済み] のいずれかです。

ライフサイクルエンティティ

「ライフサイクルエンティティ」という用語は、提案、プロジェクト、資産を指します。また、提案、プロジェクト、資産を組み合わせたものも指します。

各ライフサイクルエンティティは新規作成が可能です。ただし通常の場合、提案は、承認されると自動的にプロジェクトになり、プロジェクトは完了すると自動的に資産になります。この進行をライフサイクルと呼びます。提案、プロジェクト、資産は、このライフサイクルを構成するエンティティです。

プログラムとは、関連するライフサイクルエンティティをグループ化したものです。HP Program Managementを使用して、組織の提案、プロジェクト、資産を概略的に把握するプログラムを作成できます。

プログラムをポートフォリオに追加

HP Portfolio Managementでは、プログラムに新しい設定が追加されました。この設定により、プログラムをポートフォリオに追加することができます。詳細については、「階層ポートフォリオ」(21 ページ)を参照してください。

プログラムの財務サマリ

プログラムには、財務サマリが1つ関連付けられています。これまでのバージョンでは、各プログラムにロールアップと編集可能な財務サマリが別途ありましたが、本バージョンではありません。詳細については、「プログラムの財務サマリ」(25 ページ)を参照してください。

プログラムの検索

[プログラムの検索] ページには、次の2つの検索フィールドが追加されています。

- [含む]: 指定したライフサイクルエンティティを少なくとも1つ含むプログラムがすべて表示されます。
- [Portfolio Managementが有効になっているプログラムのみ表示]: HP Portfolio Managementが有効になっているプログラムがすべて表示されます。

プログラムの作成

プログラムの作成ページが簡素化されました。[プログラム名] フィールドと [プログラムマネージャ] フィールドが [新規プログラムの作成] ページで表示されます (プログラムレベルのユーザデータフィールドが設定されている場合、そのフィールドも [新規プログラムの作成] ページで表示されます)。

プログラムレベルのリスク

[ベストプラクティス] コンテンツに、プログラムのリスクリクエストタイプが追加されました。プログラムのリスクリクエストタイプは、プログラムに対する脅威をプログラムレベルで管理するために使用し、プログラムに関連するリスクの特定、リスク情報の収集、リスクへの迅速対応が可能になります。プログラムのリスクタイプを送信すると、アサインされたワークフローに基づいて処理されます。

プログラムリスクは、プログラムに関連するあらゆるリスクをトラッキングします。プログラムレベルのリスクと、プログラムに含まれるプロジェクトレベルのリスクがトラッキングの対象になります。プログラムリスクは、[プログラムの概要] ページのグラフ表示、プログラムリスクのヘルス計算、[プログラムリスクリスト] ポートレットで使用されます。

このコンテンツを使用するには、ベストプラクティスを再インストールしてください。

[プログラムコストサマリ] ポートレット

プログラムコストサマリポートレットは、すべてのライフサイクルエンティティコスト(プログラムに含まれるライフサイクルエンティティのコスト)に基づいて、プログラムコストのヘルスを計算します。

[プログラムプロジェクトリスト] ポートレット

[プログラムプロジェクトリスト] ポートレットは、プログラムコンテンツリストポートレットに変更されました。これは、プログラムには提案、プロジェクト、資産が含まれるためです。さらに、表示列は、[リクエストID]、[名前]、[タイプ]、[ステータス]に変更されています。

[プログラムリスト] ポートレットと [プログラムコンテンツリスト] ポートレット

[プログラムリスト] ポートレットと [プログラムコンテンツリスト] ポートレットでは、フィルタ条件に提案と資産が追加されました。

HP Project Management

作業計画

作業計画は次のように変更されています。

- タスクフィールドは、[タスクの詳細] ページを開かなくても [作業計画] ページから直接変更できるようになりました (クイック編集に代わる機能)。作業計画テーブルで直接変更可能になるのは、[名前]、[スケジュールされた期間]、[スケジュールされた開始日]、[スケジュールされた終了日]、[リソース]、[アクティビティ]、[先行タスク]、[ロール] などのフィールドと一部のユーザデータです。
- 作業計画の編集では、編集可能なタスクフィールドが必須の場合、値を入力するまで別のタスクを変更できません。
- 作業計画を編集する際、アクション処理に時間がかかる場合にはダイアログと進捗状況バーが表示されます。処理するアクションによって、経過時間カウンタ、または経過時間カウンタと予想完了時間カウンタが表示されます。
- 保存後、複数のタスクが更新され、保存時にエラーが発生した場合は、エラーを引き起こしたタスクが作業計画で強調表示されます。
- 作業計画のページに、メモ用のインジケータ列が追加されました。タスクにメモが追加されると、列にメモアイコンが表示されます。
- 作業計画へのアクセスと実績データの表示を制限できます。
- 作業計画のユーザデータへのアクセスは、セキュリティグループとフィールドレベルのセキュリティで制限できます。
- アクティブなベースラインデータを含む列を、作業計画に追加できます。この列には、スケジュールされた開始日、スケジュールされた終了日、スケジュールされた工数、実際の開始日、実際の終了日、実績工数が含まれます。また、このベースラインデータは、作業計画と一緒に PDF または Microsoft Excel にエクスポート可能です。

Microsoft Projectとの統合

HP Project Managementは、Plug-in for PPMを使用してMicrosoft Projectと統合します。本バージョンのPlug-in for PPMは、Microsoft .NET Frameworkを使用します。

Plug-in for PPMには、新規機能や拡張機能が追加されています(詳細については、『HP Project Management ユーザーガイド』を参照してください)。

- クライアント側のソフトウェア要件が新しく追加されています(詳細については、『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください)。
- 同期モードにより、メニュー選択が決定されます
- [ユーザプリファレンス] ダイアログでは、次の新機能および拡張機能が追加されています。
 - 複数言語のサポート
 - 保存プロンプトの無効化
 - HP Project Management で管理する作業計画のスケジュールされた日付をMicrosoft Projectが自動的に変更した場合、変更内容を色で表示
 - Microsoft Project ファイルのバックアップと、バックアップファイルの保存場所の設定
 - ログの有効化とログファイルの保存場所の設定
 - PPM Serverの変更
 - カスタムHTTPヘッダーの設定
 - プロキシサーバの構成
 - Microsoft Project Serverカレンダーの使用
- 同期を行わないリソースマッピング
- 同期プロセスの進捗状態を示すバー
- 作業計画に含まれるタスクの調整
- アップグレードでは、Plug-in for PPMの旧バージョンのアンインストールが不要

- Plug-in for PPMのアップグレードが必要であることを通知するメッセージ
- Microsoft ProjectをPPM Centerから起動する際、ActiveXが不要
- インターネットまたは共有フォルダに格納されているMicrosoft Projectファイルの統合が可能
- インストールでの操作を簡素化し、情報表示のみのダイアログをバイパス
- プロパティファイルの翻訳とデプロイにより、さらに多くの言語をサポート (詳細については、『Multilingual User Interface Guide』を参照してください)。

関連付けられたプログラム

[プロジェクトの概要] ページの [プロジェクトの詳細] タブに、プロジェクトが関連付けられているプログラムを表示するフィールドが新しく追加されました。プロジェクトには **HP Portfolio Management** が有効になっているプログラムを1つしか関連付けることはできません。**HP Portfolio Management** が有効になっていないプログラムの場合は1つまたは複数に関連付けることができます。

タスクでの [達成率 (%)] の入力 (オプション)

プロジェクトの [コストと工数] ポリシーに新しく **[達成率 (%)]** フィールドが追加されました。プロジェクト内のタスクの実績工数を入力する際に、このフィールドへの入力を要求する設定が可能です。

[タスクの検索] ページ

[タスクの検索] ページでは、[タスク名 (前方一致):]、[リソース]、[プロジェクト名]、[プロジェクトマネージャ] のうち、1つ以上のフィールドに入力する必要があります。デフォルトでは、[プロジェクトマネージャ] フィールドに、PPM Centerへ現在ログインしているユーザ名が表示されます。

HP Demand Management

プロジェクトリクエストの編集

[リクエスト検索結果] ページでは、クイック編集や一括更新の対象となるプロジェクトリクエストを選択できます。

管理機能およびパフォーマンスの改善

製品全般でインフラストラクチャが拡張されました。この拡張の大部分は、ユーザに対して透過的な変更です。ただし、タスクの処理方法や、PPM Center インスタンスの設定または管理に影響を与える変更もあります。

ここでは、主な改善点について説明します。

パフォーマンスの向上

次の製品分野では、再設計が行われた結果パフォーマンスが向上しています。

- HP Time Management と統合されているプロジェクトについては、ユーザが [時間の内訳] タブでタスクの実績工数を入力すると、タイムシート更新サービス (TM-PM同期サービス) は、設定された頻度 (デフォルトは3時間ごと) に基づいて、実績工数の変更をタスクのプロジェクト作業計画に送信します。このような更新をサービスとして実装することにより、HP Time Management のパフォーマンスが向上します。

Web サービス

HP Resource Management

完了したスタッフィングプロファイルの今後の予測とアサインを消去する Web サービスが新しく追加されました。

HP Time Management

Web サービスは大幅に拡張され、HP Time Managementの機能がユーザインタフェース経由で提供されます。たとえば、タイムシートポリシーの実施やタイムシートの承認などがあります。

HP Time Managementの拡張機能として、次のようなWeb サービスが新しく追加されています。

- **タイムシートライフサイクルの適用:** タイムシートライフサイクルを実装することにより、Web サービスは、タイムシートのステータスをチェックします。これにより、Web サービスでのタイムシートは、ユーザインタフェースに合わせて遷移します。たとえば、Web サービスでも、凍結状態のタイムシートを開くことはできません。
- **セキュリティアクセスの適用:** タイムシートに関連するすべてのWeb サービス操作を対象に、包括的なセキュリティチェックを実行します。したがって、Web サービス操作を実行するには、そのユーザインタフェースで必要なアクセス許可がすべて必要になります。
- **タイムシートポリシーの適用:** タイムシートポリシーがWeb サービスレイヤで実施されます。これにより、タイムシートポリシーをタイムシートデータに基づいて評価します。
- **部分データの入力:** Web サービスの操作に必要なデータのみを送信できます。たとえば、リクエストの承認を送信するだけで、すべてのアクティビティを承認することができます。同様に、特定の日に含まれる時間帯を更新したい場合は、それに対応するタイムシート明細のみを送信できます。

HP Portfolio Management

新しいWeb サービスは、新しいポートフォリオエンティティに関連する次のアクションをサポートします。

- ポートフォリオの作成
- ポートフォリオに対する下位ポートフォリオの追加と削除
- ポートフォリオに対するプログラムの追加と削除

- ポートフォリオに対する提案、プロジェクト、資産の追加と削除
- ポートフォリオヘッダー (ポートフォリオの名前とポートフォリオマネージャ) の更新
- ポートフォリオの読み出し
- 空のポートフォリオの削除

HP Program Management

新しい Web サービスは、プログラムエンティティに関する次のアクションをサポートします。

- プログラムの作成
- プログラムの更新
- プログラムの読み出し
- プログラムの削除
- プログラムの検索

HP ソリューションの統合

PPM Center は、Application Lifecycle Management (ALM) 統合ソフトウェアによる他の HP 製品との統合に加えて、ALM エンティティに依存しない新しい統合機能をサポートします。

Application Lifecycle Management

PPM Center には、Application Lifecycle Management (ALM) 統合ソフトウェアが付属します。これは、組織内で発生したアプリケーション変更に伴うコストやリスクを低減し、アプリケーションの製品化までにかかる時間を短縮するソリューションです。ALM は、HP Service Manager、HP Universal CMDB、HP Quality Center、HP Change Control Management、HP Release Control との統合をサポートします。

PPM Center 9.10向けのALM 9.10の機能とエンティティは、PPM Center 8.00向けALM 2.00とまったく同じです。ALM 2.00がインストールされている環境には、ALM 9.10はインストールできません。

ALMの詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

サービスポートフォリオ

サービスポートフォリオは、PPM Centerバージョン9.10で追加された新機能です。サービスおよびサービスライフサイクルのITIL定義を採用している場合、このオプション機能を使用することにより、ビジネスサービス関連のITプロジェクトイニシアチブのトラッキング、分類、分析が可能です。このオプションの高度な機能と柔軟性を通じて、ビジネスサービスへの投資を最大限に活用し、価値実現を目指した管理ができます。

ビジネスサービスとリクエストまたはタスクを関連付ける機能や、リクエストまたはタスクをサービスごとに分類する機能があります。

- 管理者は、次の操作を実行できます。
 - PPM CenterのHP Demand Managementモジュールのリクエスト作成ページにある[サービス]フィールドを有効にします。これにより、ユーザがリクエストを作成および送信する際、リクエストをビジネスサービスに関連付けることができます。
 - HP Project Managementモジュールで、タスクにサービスを指定できるようにします。
 - Universal CMDBサーバとリアルタイムで統合します。これにより、ビジネスサービスのリストをUniversal CMDBアプリケーションからリアルタイムで取得できます。
- エンドユーザは、適切な権限が割り当てられている場合、リクエストのサービスの表示、選択、変更を実行できます。
- プロジェクトマネージャは、次の操作を実行できます。
 - プロジェクトタスクで使用するサービスをキャプチャ。

- サービスの値を使用して、ビジネスサービスに関連したITプロジェクトイニシアチブをトラッキング。
- 財務アナリストまたはCIOは、ビジネスサービスに関連するITプロジェクトイニシアチブのトラッキング、分類、分析を実行できます。

この機能は、HP Demand Management モジュールと HP Project Management モジュールでサポートされます。

この統合の詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

作業計画タスクと HP Service Manager RFC の統合

PPM Centerは、PPM Centerの作業計画タスクからHP Service Managerの変更リクエスト (RFC) を作成する機能と、RFC と作業計画タスクの同期機能をサポートします。

この統合の詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

3 アップグレードの影響

アップグレードでの注意点

この章では、実際のアップグレード処理の影響と、アップグレードの結果変更される PPM Center データモデルおよびエンティティについて説明します。また、PPM Center データベース、拡張機能、マイグレータとサードパーティ製品を組み合わせる場合のアップグレードパスと互換性もまとめます。

アップグレードパス

PPM Center バージョン 9.10 へのアップグレードには、PPM Center バージョン 8.00 (サービスパックがある場合とない場合のいずれかの構成) がインストールされていることが条件になります。これよりも古いバージョンがインストールされている場合、まずバージョン 8.00 にアップグレードしてから、PPM Center バージョン 9.10 にアップグレードしてください。バージョン 8.00 にアップグレードする方法については、バージョン 8.00 の『Upgrade Guide』を参照してください。

サードパーティ製品 (OracleR データベースソフトウェアなど) のサポート対象バージョンで変更が行われている場合、アップグレードに影響する可能性があるのでご注意ください。ユーザ環境がアップグレード可能かどうかの確認と、アップグレードの計画作成については、『Installation and Administration Guide』および『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

Oracle データベースの互換性

次の表 (表 3-1 から表 3-5) では、PPM Center バージョン 8.00 および 9.10 の PPM Server でサポートされる Oracle データベースのバージョンをまとめます。各バージョンの詳細については、『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

表の網掛け部分は、PPM Center バージョン 9.10 でサポートされていない環境を示します。それ以外の部分については、製品の組み合わせも PPM Center バージョン 9.10 のサポート対象となり、これ以前のサポート対象環境と一致することがあります。



現在インストールされているすべての Oracle バージョンに最新のパッチが適用済みであり、最新の Critical Patch Update のガイドラインに従っている必要があります。詳細情報は、<https://metalink.oracle.com> で入手できます。

Microsoft Windows

表 3-1. PPM Center バージョン 8.00 および 9.10 でサポートされる Oracle データベースおよび Microsoft Windows プラットフォーム

Oracle バージョン	Windows Server 2003 SP1 Standard Edition および Enterprise Edition ^a	Windows Server 2003 SP1 Standard Edition および Enterprise Edition	Windows Server 2003 R2 Standard Edition ^a	Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition ^a	Windows Server 2003 R2 SP2 Standard Edition および Enterprise Edition ^a	Windows Server 2008 Datacenter Edition ^a	Windows Server 2008 Standard Edition および Enterprise Edition ^a
10.2.0.4 10.2.0.4 RAC	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
11.1.0.6	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10
11.2.0.1.0 11.2.0.1.0 RAC	9.10	9.10	9.10	9.10	9.10	9.10	9.10

a. 32-ビットおよび64-ビットの両方をサポートします。

Sun Solaris

表 3-2. PPM Centerバージョン8.00および9.10でサポートされるOracleデータベースおよびSun Solarisプラットフォーム

Oracleバージョン	Solaris 9 ^a	Solaris 10 ^b
10.2.0.4 10.2.0.4 RAC	8.00	8.00
11.1.0.6 11.1.0.6 RAC	8.00	8.00
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10
11.2.0.1.0 11.2.0.1.0 RAC	9.10	9.10

a. PPM Centerバージョン8.00のサポート対象は、Solaris 9パッチ1から9です。

b. PPM Centerバージョン8.00のサポート対象は、Solaris 10パッチ1から8です。

HP-UX

表 3-3. PPM Centerバージョン8.00および9.10でサポートされるOracleデータベースおよびHP-UXプラットフォーム

Oracleバージョン	HP-UX 11i v2 ^a	HP-UX 11i v3 ^a
10.2.0.4 10.2.0.4 RAC	8.00	8.00
11.1.0.6 11.1.0.6 RAC	8.00	8.00
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10
11.2.0.1.0 11.2.0.1.0 RAC	9.10	9.10

a. バージョン8.00については、PA-RISCおよびItaniumの両方をサポートします。

表 3-4. PPM Centerバージョン8.00および9.10でサポートされるOracleデータベースおよびIBM AIXプラットフォーム

Oracleバージョン	AIX 5Lバージョン5.3	AIXバージョン6.1
10.2.0.4 10.2.0.4 RAC	8.00	サポート対象外
11.1.0.6 11.1.0.6 RAC	8.00	サポート対象外
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	8.00 SP1 9.10	9.10
11.2.0.1.0 11.2.0.1.0 RAC	9.10	9.10

Red Hat Linux

表 3-5. PPM Centerバージョン8.00および9.10でサポートされるOracleデータベースおよびRed Hat Linuxプラットフォーム

Oracleバージョン	Red Hat Enterprise Linux AS 4.0 ^a	Red Hat Enterprise Linux AS 5.0 ^b
10.2.0.4 10.2.0.4 RAC	8.00	8.00
11.1.0.6 11.1.0.6 RAC	8.00	8.00
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10
11.2.0.1.0 11.2.0.1.0 RAC	9.10	9.10

- a. PPM Centerバージョン8.00では、最初のAS 4.0リリースおよびアップデート1から6をサポートします。32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。
- b. PPM Centerバージョン8.00では、最初のAS 5.0リリースおよびアップデート1から4をサポートします。32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。

表 3-6. PPM Centerバージョン8.00および9.10でサポートされるOracleデータベースおよびSUSE Linuxプラットフォーム

Oracleバージョン	SUSE Linux Enterprise 9 ^a	SUSE Linux Enterprise 10 ^b	SUSE Linux Enterprise 11 ^c
10.2.0.4 10.2.0.4 RAC	8.00	8.00	サポート対象外
11.1.0.6 11.1.0.6 RAC	8.00	8.00	サポート対象外
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	8.00 SP1 9.10	8.00 SP1 9.10	9.10
11.2.0.1.0 11.2.0.1.0 RAC	9.10	9.10	9.10

- a. PPM Centerバージョン8.00では、最初のEnterprise 9リリースおよびSP1からSP4をサポートします。32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。
- b. PPM Centerバージョン8.00では、最初のEnterprise 10リリースおよびSP1からSP3をサポートします。32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。
- c. 32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。

拡張機能とマイグレータの互換性

HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite

表 3-7は、Oracle E-Business Suiteの各バージョンをサポートするHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business SuiteおよびPPM Centerのバージョンを示しています。

網掛け部分は、PPM Centerバージョン9.10でサポートされないバージョンを示します。それ以外の部分は、このPPM Centerバージョンでサポート対象となる組み合わせを示します。

表 3-7. PPM Centerバージョン8.00および9.10でサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン (1/2 ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン8.0.0	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.10
1111.5.6	8.00	9.10
11.5.7 Application Object Library: FND.E Applications DBA: AD.F 共通モジュール: AK.D Financials Suite: Family Pack A	8.00	9.10
11.5.8 Application Object Library: FND.F Applications DBA: AD.G 共通モジュール: AK.E Financials Suite: Family Pack C	8.00	9.10
11.5.9 ^a Application Object Library: FND.G Applications DBA: AD.H 共通モジュール: AK.F Financials Suite: Family Pack D	8.00	9.10

表 3-7. PPM Centerバージョン8.00および9.10でサポートされる Oracle E-Business SuiteおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン (2/2 ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン8.0.0	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.10
11.5.10 ^{a, b} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	8.00	9.10
11.5.10.2 (CU2) ^b Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I.6 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	8.00	9.10
12.0.012.1.2 Applications Technology: R12.ATG_PF.A R12.ATG_PF.B.DELTA.2 Applications DBA: R12.AR12.AD.B.DELTA.1	8.00	9.10

a. 11.5.8とFND.G Mini Packの組み合わせは、11.5.9の機能に相当します。

b. 11.5.8-11.5.9とFND.H Mini Packの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します。

HP Object MigratorおよびMercury GL Migrator

表 3-8は、Oracle E-Business SuiteをサポートするMigratorおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteをバージョンごとに示しています。

網掛け部分は、PPM Centerバージョン9.10でサポートされないバージョンを示します。それ以外の部分は、このPPM Centerバージョンでサポート対象となる組み合わせを示します。

表 3-8. HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン8.00および9.10でサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Migratorのバージョン (1/2 ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	Kintana Object* Migratorバージョン5.1	Mercury Object Migratorバージョン6.0	HP Object Migratorバージョン7.5	Kintana GL*Migratorバージョン2.0	Mercury GL Migratorバージョン6.0
11 - 11.5.1	8.0.0	8.0.0	8.0.0	8.0.0	8.0.0
	9.10	9.10	9.10	9.10	9.10
11.5.2 - 11.5.6	8.0.0	8.0.0	8.0.0	サポート対象外	8.0.0
	9.10	9.10	9.10	サポート対象外	9.10
11.5.7 Application Object Library: FND.E Applications DBA: AD.F 共通モジュール: AK.D Financials Suite: Family Pack A	8.0.0	8.0.0	8.0.0	サポート対象外	8.0.0
	9.10	9.10	9.10	サポート対象外	9.10
11.5.8 Application Object Library: FND.F Applications DBA: AD.G 共通モジュール: AK.E Financials Suite: Family Pack C	8.0.0	8.0.0	8.0.0	サポート対象外	8.0.0
	9.10	9.10	9.10	サポート対象外	9.10
11.5.9 ^a Application Object Library: FND.G Applications DBA: AD.H 共通モジュール: AK.F Financials Suite: Family Pack D	8.0.0	8.0.0	8.0.0	サポート対象外	8.0.0
	9.10	9.10	9.10	サポート対象外	9.10

表 3-8. HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン8.00および9.10
でサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Migratorのバージョン (2/2 ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	Kintana Object* Migratorバージョン 5.1	Mercury Object Migratorバージョン 6.0	HP Object Migratorバージョン 7.5	Kintana GL*Migratorバージョン 2.0	Mercury GL Migratorバージョン 6.0
11.5.10とFND.H Mini Packの組み合わせ ^{a、b、d} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	サポート対象外	8.0.0	8.0.0	サポート対象外	8.0.0
	サポート対象外	9.10	9.10	サポート対象外	9.10
11.5.10.2 (CU2) ^{c、d} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I.6 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	サポート対象外	8.0.0	8.0.0	サポート対象外	8.0.0
	サポート対象外	9.10	9.10	サポート対象外	9.10
12.0.012.1.2 Applications Technology: R12.ATG_P.F.A R12.ATG_P.F.B.DELTA.2 Applications DBA: R12.AR12.AD.B.1	サポート対象外	サポート対象外	8.0.0 ^e	サポート対象外	サポート対象外
	サポート対象外	サポート対象外	9.10 ^e	サポート対象外	サポート対象外

a. 11.5.8とFND.G Mini Packの組み合わせは、11.5.9の機能に相当します。

b. 11.5.8-11.5.9とFND.H Mini Packの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します (HP Object Migrator)。
11.5.8-11.5.9とFinancials Family Pack Fの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します (HP GL Migrator)。

c. 詳細については、HP Object Migrator Oracle Applicationsバージョン11.5.10.2互換性パッチ (#174141) のReadmeを参照してください。

d. Oracle Database 10gでOracle Applications E-Business Suiteバージョン11.5.10をサポートするためには、パッチ54770のインストールが必要です。詳細については、HP Object Migratorバージョン6.0 Database 10g互換性パッチ (#154770) のReadmeを参照してください。

e. R12.1.2との互換性パッチをObject Migrator 7.5に適用してください。

HP Deployment Management Extension for Oracle Technology

本バージョンのPPM Centerでは、HP Deployment Management Extension for Oracle Technologyのサポートに変更はありません。ただし、アップグレードの完了後にExtensionの新バージョンをインストールしてください。

HP Deployment Management Extension for SAP Solutions

本バージョンのPPM CenterのHP Deployment Management Extension for SAP Solutionsでは、SAPモジュール、アーカイブ、プラットフォームのサポートに変更はありません。ただし、アップグレードの完了後にExtensionの新バージョンをインストールしてください。

カスタマイズソリューション

アップグレードを行うと、カスタマイズソリューションの動作に影響が発生する可能性があります。カスタマイズの内容をよく確認してから、アップグレードを行ってください。本バージョンで新しく提供される機能が、カスタマイズ環境に影響を及ぼすことがあります。

データモデルの変更

バージョン8.00から本バージョンへのアップグレードに伴うデータモデルの主な変更点をまとめます。また、バージョン8.00.01 (8.00 SP1) での変更点についても紹介します。

テーブル

表 3-9は、PPM Centerバージョン8.00からのアップグレードで変更されたテーブルを詳しく示しています。9.10では、一部テーブルの削除、新規追加、変更、廃止、ビューによる置換が行われています。

表 3-9. テーブルの変更 (1/8ページ)

テーブル	変更内容
FM_FORECAST_ACTUAL_PERIOD_SUM	9.10で変更
I18N_KNTA_LOOKUPS	9.10で削除
ITG_BUNDLED_ITEMS	8.00 SP1で廃止
ITG_COMPRESSED_ELEMENTS	8.00で廃止
ITG_SETTINGS_ATTRIBUTES	9.10で変更
ITG_SETTINGS_CONT_ATTRS	9.10で変更
JMS_MESSAGES	9.10で削除
JMS_ROLES	9.10で削除
JMS_SUBSCRIPTIONS	9.10で削除
JMS_TRANSACTIONS	9.10で削除
JMS_USERS	9.10で削除
KCRT_FG_PFM_ASSET	9.10で変更
KCRT_FG_PFM_ASSET_INT	9.10で変更
KCRT_FG_PFM_PROJECT	9.10で変更
KCRT_FG_PFM_PROPOSAL	9.10で変更

表 3-9. テーブルの変更 (2/8 ページ)

テーブル	変更内容
KCRT_FG_PFM_PROPOSAL_INT	9.10で変更
KCRT_FG_PROG_REFERENCE	9.10で変更
KCRT_FG_PROG_REFERENCE_INT	9.10で変更
KCRT_FG_PROG_RISK	9.10で追加
KCRT_FG_PROG_RISK_INT	9.10で追加
KCRT_FG_SERVICE	9.10で追加
KCRT_FG_SERVICE_INT	9.10で追加
KCRT_FG_UCMDB_INT	9.10で変更
KCRT_REQUEST_DETAILS	9.10で変更
KCRT_REQUEST_HEADER_TYPES_LOC	9.10で変更
KCRT_REQUEST_SUB_TYPES_LOC	9.10で変更
KCRT_REQUEST_TYPE_SECURITY	9.10で変更
KCRT_REQUEST_TYPES_LOC	9.10で変更
KCRT_RT_REQUEST_RESOURCES	9.10で変更
KCRT_STATUSES_LOC	9.10で変更
KCRT_TABLE_ENTRIES	9.10で変更
KCST_BENEFIT_ACCESS	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_LINE_CELLS	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_LINES	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_LINKED_ENTITIES	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_PERIOD_SUM_75	8.00で削除
KCST_BENEFIT_TXN_HIST	8.00で廃止
KCST_BENEFITS	8.00で廃止
KCST_BUDGET_ACCESS	8.00で廃止

表 3-9. テーブルの変更 (3/8 ページ)

テーブル	変更内容
KCST_BUDGET_LINE_CELLS	8.00で廃止
KCST_BUDGET_LINES	8.00で廃止
KCST_BUDGET_LINKED_ENTITIES	8.00で廃止
KCST_BUDGET_PERIOD_SUM_75	8.00で削除
KCST_BUDGET_TXN_HIST	8.00で廃止
KCST_BUDGETS	8.00で廃止
KCST_CURRENCY_CELLS_75	8.00で削除
KCST_CURRENCY_LINES_75	8.00で削除
KDEM_DEMAND_FIELDS	9.10で変更
KDEM_DEMANDS	9.10で変更
KDLV_PACKAGES_INT	9.10で変更
KDRV_CALENDAR_EXCEPTIONS	9.10で変更
KDRV_CALENDAR_SETUPS	9.10で変更
KDRV_ROLLUP_METHODS	9.10で変更
KDRV_ROLLUP_SETUPS	9.10で変更
KDRV_STATES_NLS	9.10で変更
KDRV_WORKING_DAYS	9.10で変更
KDSH_DIST_IMPACTED_USERS	9.10で廃止
KDSH_DIST_ORG_UNITS	9.10で廃止
KDSH_DIST_SECURITY_GRPES	9.10で廃止
KDSH_DISTRIBUTION_ERRORS	9.10で廃止
KDSH_DISTRIBUTION_USERS	9.10で廃止
KDSH_DYNAMIC_FILTERS	9.10で廃止
KDSH_MODULE_DIST_PAGES	9.10で廃止

表 3-9. テーブルの変更 (4/8 ページ)

テーブル	変更内容
KDSH_MODULE_DIST_PORTLETS	9.10で廃止
KDSH_MODULE_DISTRIBUTIONS	9.10で廃止
KDSH_MODULES	9.10で廃止
KDSH_PUBLISHED_MODULE_USERS	9.10で廃止
KENV_ENVIRONMENTS	9.10で変更
KENV_HOST_CLASSES_NLS	9.10で変更
KINS_ACTIONS	9.10で追加
KINS_TABLESPACES	9.10で追加
KNTA_APP_SERVER_PROPERTIES	9.10で変更
KNTA_COMMANDS	9.10で変更
KNTA_ENTITIES_NLS	9.10で変更
KNTA_EXTERNAL_SYNCH	9.10で変更
KNTA_FIELD_SECURITY	9.10で変更
KNTA_PARAM_SET_FIELDS_NLS	9.10で変更
KNTA_REF_RELATIONSHIPS_NLS	9.10で変更
KNTA_REFERENCES	9.10で変更
KNTA_REPORT_SUBMISSIONS	9.10で変更
KNTA_RESOLVED_SEC_TOKENS	9.10で変更
KNTA_SERVER_PARAM_DEF_NLS	9.10で変更
KNTA_UCMDB_CI_ENTRIES	9.10で追加
KNTA_UCMDB_CI_SETS	9.10で追加
KNTA_USERS	9.10で変更
KNTA_VALIDATIONS_NLS	9.10で変更
KPFM_CONFIGURATIONS	9.10で変更

表 3-9. テーブルの変更 (5/8 ページ)

テーブル	変更内容
KPFM_SCENARIOS	9.10で変更
KPMO_PROGRAM_BUSINESS_OBJ	9.10で変更
KRSC_ORG_UNITS_NLS	9.10で変更
KRSC_STAFF_PROF_PERIOD_SUM	9.10で変更
KTMG_PAGE_COLUMNS	9.10で変更
KTMG_POLICIES	9.10で変更
KWFL_PENDING_EXEC_CALLBACKS	9.10で変更
KWFL_RESOLVED_SEC_TOKENS	9.10で変更
KWFL_WORKFLOW_STEPS_NLS	9.10で変更
KWFL_WORKFLOWS_NLS	9.10で変更
PFM_PORTFOLIO_CONTENTS	9.10で追加
PFM_PORTFOLIO_MANAGERS	9.10で追加
PFM_PORTFOLIOS	9.10で追加
PGM_PROGRAM_CONTENT	9.10で追加
PGM_PROGRAMS	9.10で追加
PLSQL_BLOCK_TES	9.10で削除
PM_EXCEPTION_RULE_RESULTS	9.10で変更
PM_MSP_LINK_REQUESTS	9.10で追加
PM_PROGRAM_PROJECTS	9.10で削除
PM_PROJECTS_CONTAINERS	9.10で削除
PPM_EMAIL_CONTEXT_INFO	9.10で追加
PPM_EMAIL_PROCESSED_MSGS	9.10で追加
PPM_FISCAL_PERIODS_NLS	9.10で追加
PPM_INT_CONFIGURATIONS	9.10で追加

表 3-9. テーブルの変更 (6/8 ページ)

テーブル	変更内容
PPM_INT_EVENTS	9.10で追加
PPM_INT_QC_CONTROL	9.10で追加
PPM_INT_QC_ENTITY_MAP	9.10で追加
PPM_INT_SOLUTIONS_NLS	9.10で追加
PPM_SERVICE_JOB_STATUS	9.10で変更
RC_TEMP_TABLE	9.10で削除
RPT_CALENDAR_DAYS	9.10で追加
RPT_CM_FACT_CNTL	9.10で追加
RPT_DIM_PPM_FISCAL_PERIODS	9.10で追加
RPT_DIM_REQUESTS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_POSITIONS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_RESOURCEPOOLMGRS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_RESOURCEPOOLS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_RESOURCES	9.10で追加
RPT_DIM_RM_ROLES	9.10で追加
RPT_DIM_RM_STAFF_PROFILES	9.10で追加
RPT_DIM_TM_TIME_SHEET_LINES	9.10で追加
RPT_DIM_TM_TIME_SHEETS	9.10で追加
RPT_ETL_JOB	9.10で追加
RPT_EVENT_DEF	9.10で追加
RPT_EVENT_LOG	9.10で追加
RPT_EVENT_LOG_DETAIL	9.10で追加
RPT_FCT_FM_APPROVED_BUDGETS	9.10で追加
RPT_FCT_FM_FCST_ACTUAL_CELL	9.10で追加

表 3-9. テーブルの変更 (7/8 ページ)

テーブル	変更内容
RPT_FCT_RM_RES_DISTRIBUTION	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_CAPACITY	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_DEMAND	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_DEMAND_STG	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_EFFORT	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESRCE_CAPACITY_STG	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RSC_CAPACITY_AGGR	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RSC_DEMAND_AGGR	9.10で追加
RPT_FCT_TM_ACTUAL_EFFORT	9.10で追加
RPT_FCT_TM_COMPLIANCE	9.10で追加
RPT_FCT_TM_COST	9.10で追加
RPT_KNTA_USERS_DELETES	9.10で追加
RPT_PARAMS	9.10で追加
RPT_RECREATE_INDEX	9.10で追加
RPT_RERUN_STATUS	9.10で追加
RPT_RM_FACT_CNTRL	9.10で追加
RPT_RM_RSC_RP_ENTRIES	9.10で追加
RPT_RSC_RPDE_DELETES	9.10で追加
RSC_RESOURCES	9.10で変更
SM_RFC	9.10で追加
TEMP_TBL1	8.00 SP1で削除
TEMP_UTIL_SOURCE	8.00 SP1で削除
TM_TIME_SHEETS	9.10で変更
TM_WORK_UNITS	9.10で変更

表 3-9. テーブルの変更 (8/8 ページ)

テーブル	変更内容
VALIDATION_ERRORS	9.10で削除
WP_CALENDAR_CONSTRAINTS	9.10で変更
WP_TASK_ACTUALS	9.10で変更
WP_TASK_COSTS	9.10で変更
WP_TASK_INFO	9.10で変更
WP_USER_DATA	9.10で変更

ビュー

表 3-10は、PPM Centerバージョン8.00より後に変更または追加されたビューの一覧です。

表 3-10. ビューの変更 (1/2 ページ)

ビュー	変更内容
RPT_DIM_BUSINESS_OBJ_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_FCST_ACTUAL_LINE_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_FCST_ACTUAL_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_FIN_SUMMARY_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_KNTA_LOOKUPS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_ORG_UNITS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_PROGRAMS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_PROGRAM_CONTENT_MV	9.10で追加
RPT_DIM_PROJECTS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_REGIONS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_TM_ACTIVITIES_MV	9.10で追加

表 3-10. ビューの変更 (2/2 ページ)

ビュー	変更内容
RPT_DIM_TM_CHARGE_CODES_MV	9.10で追加
RPT_DIM_TM_PERIODS_MV	9.10で追加
RPT_FCT_FM_FA_APPROVED_MV	9.10で追加
RPT_PPM_AGGR_WRK_DAYS_MV	9.10で追加
RPT_PPM_AGGR_WRK_DAYS_MV	9.10で追加
KRSC_ORG_UNITS_V	9.10で変更

エンティティの変更

ここでは、HP-が提供するエンティティについて、バージョン8.00から本バージョンへのアップグレードに伴う主な変更について説明します。エンティティには、アクセス許可、ライセンス、ポートレット、レポートタイプ、リクエストタイプ、特殊コマンド、トークン、検証、ワークフローが含まれます。記載の通り、バージョン7.5および8.00のサービスパックで行われた変更もあります。ここでは特に、バージョン7.5 SP4、SP5、SP6、バージョン8.00.01 (8.00 SP1) の変更について紹介します。

アクセス許可

表 3-11. アクセス許可の変更 (1/2 ページ)

エンティティ名	変更内容
Portfolio Managementの設定	9.10で変更
MSPSリソースマッピングの作成	9.10で追加
全財務サマリの実績の編集	9.10で追加
財務サマリの実績の編集	9.10で追加
すべてのポートフォリオの編集	9.10で追加

表 3-11. アクセス許可の変更 (2/2 ページ)

エンティティ名	変更内容
Edit Costs on All Financial Summaries (全財務サマリのコストの編集)	[全財務サマリの実績の編集] に名前を変更
Edit Costs on Financial Summary (財務サマリのコストの編集)	[財務サマリの実績の編集] に名前を変更
MSPSリソースマッピングの編集	9.10 で追加
ポートフォリオの編集	9.10 で追加
ポートフォリオマネージャ	9.10 で [すべてのポートフォリオの表示] に名前を変更し、内容を変更
未指定リソースの保証	9.10 で追加
すべてのポートフォリオの表示	9.10 で追加

ライセンス

9.10では、ライセンスの変更はありません。

ポートレット

表 3-12. ポートレットの変更

エンティティ名	変更内容
財務比較	8.00 SP1 で追加
財務サマリと財務データの比較	8.00 SP1 で追加
プログラムコンテンツリスト	9.10 で追加
プログラムコストサマリ	9.10 で変更
プログラムリスト	9.10 で変更
Program Project List (プログラムプロジェクトリスト) (後継ポートレットは、プログラムコンテンツリスト)	9.10 で置換

レポートタイプ

9.10では、レポートタイプに変更はありません。

リクエストヘッダータイプフィールドグループ

表 3-13. リクエストヘッダータイプフィールドグループの変更

エンティティ名	変更内容
サービス	9.10で追加

レポートタイプ

表 3-14. リクエストタイプの変更

エンティティ名	変更内容
PFM資産	9.10で変更
PFMプロジェクト	9.10で変更
PFM提案	9.10で変更

特殊コマンド

表 3-15. 特殊コマンドの変更

エンティティ名	変更内容
ksc_clear_staffingprofile_forecast_assignment	9.10で追加

検証

表 3-16. 検証の変更

エンティティ名	変更内容
CST - 予算エンティティ	9.10で変更
CST - プログラム名	9.10で変更
財務ベネフィットの回避カテゴリリスト	9.10で編集可能に変更
財務ベネフィットの収入カテゴリリスト	9.10で編集可能に変更
PM - プログラム	9.10で変更
PM - プログラム (制限付き)	9.10で変更
PMO - すべてのコストに対応するプロジェクト	9.10で変更
PMO - プログラムプロジェクト	9.10で変更
サービスリスト	9.10で追加
サービスリストデータ	9.10で追加
サービスリストuCMDB	9.10で追加

ワークフロー

表 3-17. ワークフローの変更

エンティティ名	変更内容
プログラムリスク管理プロセス	9.10で追加

4 システム要件および設定の更新

システム変更の概要

この章では、本バージョンの PPM Center で変更されたシステムソフトウェアおよび更新について説明します。特に記載がない場合、バージョン 9.10 に関連する変更を示しています。



各プラットフォーム環境に関する内容は、『System Requirements and Compatibility Matrix』参照してください。

server.conf ファイルの変更

ここでは、本バージョンでの `server.conf` ファイルの変更について説明します。

追加と変更

`server.conf` ファイルのパラメータで新しく追加されたパラメータや変更されたパラメータ (機能の変更や設定可能な値の変更など) を表 4-1 に示します。パラメータの詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

表 4-1. server.conf パラメータの新規追加と変更 (1/4 ページ)

パラメータ名	説明
ARP_PORTLET_MAX_RESOURCE_POOLS	HP Resource Management のリソースプールの分析ポートレットで表示するリソースの最大数。 リソースプールの数が設定値を上回ると、PPM Server は計算を停止し、ポートレットでは結果が表示されません。
AUTO_COMPLETE_LONG_TYPE_CULLTEXT_REQUIRED	結果を表示しないオートコンプリートダイアログの表示機能を有効または無効にします。これにより、結果をすべて表示するのではなく、結果のフィルタ処理が可能になります。
dashboard.List-Column-Header-Size	リストポートレットの列タイトルに表示する文字数。列タイトルに収まらない文字は切り詰められます。デフォルトは20文字です。
ENABLE_MOBILITY_ACCESS_SERVICE [7.5 SP4]	モバイルアクセスサービスを有効または無効にします。
ENABLE_PORTLET_FULL_RESULTS_SORTING	ポートレットの結果をソートします。
ENABLE_PROMISE_RESOURCE_ALLOCATION	保証済みリソースの割り当てを有効または無効にします。保証済みリソースまたは保証済み割り当てとは、名前が特定されていないリソース割り当てを指します。リソースはすでに割り当てられているがPPM Centerで定義されていない場合（請負業者など）や、リソースを確保しておき、後で詳細を指定する場合に使用します。
ENABLE_TM_ALLOW_EMPTY_ITEM	データのない明細を含むタイムシートの送信を許可または禁止します。また、ユーザにメッセージを表示した後にはのみ、このようなタイムシートの送信を許可します。
ENABLE_TPM_SYNC_SERVICE [7.5 SP5]	TM-PM 同期サービスを有効または無効にします。このサービスは、server.conf のTPM_SYNC_SERVICE_INTERVAL パラメータで指定した間隔で、HP Time Management のタイムシート更新と HP Project Management のプロジェクト作業計画タスクを同期します。

表 4-1. server.confパラメータの新規追加と変更 (2/4 ページ)

パラメータ名	説明
HTTPS_CIPHERS [8.00 SP1]	サーバがSSL/TLS接続で使用を許可する暗号を含むカンマ区切りのリストです。このパラメータを指定しないと、SSL/TLSクライアントに、JDKで使用可能なすべての暗号のネゴシエーションを許可します。
HTTPS_PROTOCOL [8.00 SP1]	サーバが使用するSSL/TLSクライアントのバージョンの選択を有効にします(デフォルトはTLSです)。
MOBILITY_ACCESS_SERVICE_INTERVAL [7.5 SP4]	モバイルアクセスサービスの時間間隔(分単位)。
PROJ_COST_ROLL_UP_DURATION_IN_DAYS	ロールアップ計算の対象とするプロジェクトの最長期間(日数)。この設定値よりも期間が長いプロジェクトでは、コストロールアップは計算されません。
PV_USE_ACTIVE_BASELINE_DATES [7.5 SP5]	計画価値(PV)計算アルゴリズムの使用を許可または禁止します。このアルゴリズムは、スケジュールされた日付ではなく、プロジェクトのアクティブなベースライン日付を使用します。
SERVICE_LIST_SOURCE	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SERVICE_LIST_UCMDB_CACHE_TIMEOUT	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SERVICE_LIST_UCMDB_CI_MAPPINGS	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SERVICE_LIST_UCMDB_CI_TYPE	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SERVICE_LIST_UCMDB_WS_MAX_CI_NUMBER	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SM_RFC_INTEGRATION_ENABLED [7.5 SP4]	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SM_PASSWORD [7.5 SP4]	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SM_URL [7.5 SP4]	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SM_USERNAME [7.5 SP4]	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
SM_WEB_URL [7.5 SP4]	詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。
TM_DISABLE_INCLUDING_LAST_TS_ITEMS	新規作成するタイムシートに、直前の期間のタイムシートの項目を含める(コピーする)操作を有効または無効にします。

表 4-1. server.confパラメータの新規追加と変更 (3/4 ページ)

パラメータ名	説明
TM_DYNAMIC_DESC_CHARS [7.5 SP6]	タイムシートの [項目] 列に項目を追加または削除する際、列幅の調整を許可します。
TM_DYNAMIC_DESC_CHARS_MAX [7.5 SP6]	タイムシートの [項目] 列の最大幅を、およその文字数で指定します。
TMPM_SYNC_SERVICE_INTERVAL [7.5 SP5]	TM-PM同期サービスの実行間隔 (ミリ秒)。 注: デフォルト値 (3時間) をそのまま使用することを推奨します。
UCMDB_SERVER_URL	Universal CMDBサーバのURL: http://<UCMDB_Host>:<port>/ucmdb/ または https://<UCMDB_Host>:<port>/ucmdb <UCMDB_Host>は、Universal CMDBが実行されているホストマシンを示します。 注: Universal CMDBサーバでHTTPSのサポートを設定する場合には、必ずUCMDB_SSL_KEYSTORE_PATHパラメータを設定してください。
UCMDB_SSL_KEYSTORE_PATH	Universal CMDB SSL キーストアパス。次に例を示します。 /home/release/Instances/ ucmdb80.keystore このパラメータの設定が必要になるのは、HTTPSの使用をUCMDB_SERVER_URLパラメータで設定している場合のみです。
UCMDB_WS_MAX_CONNECTION_NUMBER	WebサービスAPIを使用してUniversal CMDBサーバに接続する場合に、許可される最大接続数です。

表 4-1. server.confパラメータの新規追加と変更 (4/4 ページ)

パラメータ名	説明
UCMDB_WS_PASSWORD	Web サービスによってログインする場合の Universal CMDB ユーザパスワード。 このパスワードは暗号化が必要です。
UCMDB_WS_USER	Web サービスを使用したログインで使用する Universal CMDB ユーザー名。たとえば、admin などがあります。
USE_HTTPONLY [8.00 SP1]	選択した Cookie に対して PPM Server が使用する HTTPOnly フラグを有効または無効にします。

削除されたパラメータ

本バージョンでは、次の server.conf ファイルパラメータはサポートされません。



一部のパラメータは削除され、代わりに、標準インタフェースに新しく追加されたバックグラウンドサービスコントロールが使用されます。

表 4-2. 削除された server.conf パラメータ

パラメータ名
EFFORT_DECOMPRESSION_INTERVAL
ENABLE Effort Decompression Service
ENABLE_PROGRAM_EDITABLE_FS
PM_NUM_EDIT_TASKS

索引

- A**
ALM, **36**
Application Lifecycle Management
ALM エンティティを参照
- D**
Demand Vs Capacity レポート, **20**
- F**
Financial Summary レポート, **20**
Financial Management
新機能, **28**
- M**
Migrator の互換性, **46**
MLU
サポート対象言語, **17**
- O**
Operational Reporting, **19, 20**
カスタマイズレポート, **20**
Oracle データベースの互換性, **40**
- P**
Portfolio Management
新機能, **10, 21**
Program Management
新機能, **28**
Project Management
新機能, **31**
- R**
Resource Management
新機能, **10, 22**
- S**
server.conf ファイル
バージョン 9.10 での変更, **61**
- T**
Time Management
新機能, **10**
Time Sheet Compliance レポート, **20**
- W**
Web サービス
新機能, **12, 34**
- あ**
アクセス許可
バージョン 9.10 での変更, **57**
アップグレード
アクセス許可の変更, **57**

影響, **39**

カスタマイズ, **48**

検証の変更, **60**

互換性

Oracle データベース, **40**

拡張機能, **44**

migrator, **46**

注意点, **13**

データモデルテーブルの変更, **49**

データモデルの変更, **49**

特殊コマンドの変更, **59**

パス, **39**

ポートレットの変更, **58**

ライセンスの変更, **58**

リクエストタイプの変更, **59**

リクエストヘッダタイプフィールドグループの変更, **59**

レポートタイプの変更, **59**

ワークフローの変更, **60**

か

拡張機能の互換性, **44**

カスタマイズ, **48**

管理コンソールインタフェース, **18**

け

言語

MLU のサポート, **17**

検証

バージョン 9.10 での変更, **60**

こ

互換性

Oracle データベース, **40**

拡張機能, **44**

migrator, **46**

さ

サービスポートフォリオ, **37**

し

システム要件の更新, **61**

事前設定レポート, **20**

せ

設定の更新, **61**

そ

操作性の改善

管理コンソールインタフェース, **18**

ソリューション, **13, 36**

て

データモデル

バージョン 9.10 での変更, **49**

データモデルテーブル

バージョン 9.10 での変更, **49**

テーブル、データモデル

バージョン 9.10 での変更, **49**

と

統合, **12, 36**

ALM, **36**

サービスポートフォリオ, **37**

作業計画タスクと HP Service Manager RFC
の統合, **38**

特殊コマンド

バージョン 9.10 での変更, **59**

は

バージョン 8.10 の変更点, **9**

バージョン 9.10 で改善された管理機能, **34**

バージョン 9.10 での操作性の改善, **18**

バージョン 9.10 の変更点の紹介, **9**

パフォーマンスの向上, **34**

ふ

文書, **14**

バージョン 9.10 でのタイトル変更, **14**

ほ

ポートレット

バージョン 9.10 での変更, **58**

ら

ライセンス

バージョン 9.10 での変更, **58**

り

リクエストタイプ

バージョン 9.10 での変更, **59**

リクエストヘッダータイプフィールドグループ

バージョン 9.10 での変更, **59**

れ

レポート

Demand Vs Capacity レポート, **20**

Financial Summary レポート, **20**

Operational Reporting, **19**

Operational Report のカスタマイズ, **20**

Time Sheet Compliance レポート, **20**

事前設定されている Operational Report, **20**

レポートタイプ

バージョン 9.10 での変更, **59**

わ

ワークフロー

バージョン 9.10 での変更, **60**

